

ジオパーク事業を推進する専門職員に求められる視点

Necessary perspectives for the special official employed to promote the business of Geopark

大野 希一^{1*}

Marekazu Ohno^{1*}

¹島原半島ジオパーク事務局

¹Unzen Volcanic Area Geopark Office

ジオパークに認定された地域は、対象物の保全・保護に重きをおく世界遺産とは異なり、地質遺産を保護しつつ、それらを教育・観光に活用し、地域を活性化させる事が求められる。特に、世界ジオパークに認定された地域は、4年に一度審査が行われ、場合によってはその認定が取り消されることから、地質遺産の保全と、それらの有効活用を継続して推進していけるような体制としくみ作りが要求される。

このような状況下で、世界ジオパークに認定された地域に属する地方自治体に就職した、地形・地質の専門知識を持つ職員（以下“専門職員”）には、どのような視点が求められるのか。行政職員としての職務を遂行するのはもちろんだが、それ以外に求められる視点について、演者の微々たる経験を基に、いくつかの事例を紹介したい。

【地形や地質に関する専門知識をどう活用するのか】

地形や地質（以下“ジオ”）に関する専門職員は、内部的にも対外的にも、そのジオパークの学術的な品質保証をするような存在である。しかし専門職員がなすべき事は、品質保証の追求、すなわち学術研究ではない。専門職員に求められるのは、自らのジオの知識を教育面や観光面に活用し、地域の活性化に役立てる事に他ならない。そのためには、学術的な正当性を保ちながら、市民や観光客が楽しくジオの素晴らしさを体験出来るよう、その価値を文章および対面にてわかりやすく伝える能力が必要となる。対象者は幅広い年齢層をもち、かつ出身地も知識量も様々である。このような多様な顧客の満足度を向上させるためには、優れたプレゼンテーション能力と、高いコミュニケーション能力が必要である。

【ジオ以外に求められる知識】

ジオパークはジオに限らず、それらを利用した人々の歴史や文化も対象に含む。よって、専門職員は人文地理学的な視点で地域を見る目が必要となる。その際、ただ漠然と地域の歴史や文化を学習するのではなく、それらとジオがどのような関わりを持っているか、という点を常に意識しながら、積極的に情報を収集する姿勢が必要である。

【重要な観光マーケティングのノウハウ】

ジオサイトを魅力的な観光地に変えるには、その背景に潜んでいる学術的価値をわかりやすく発信するだけでは不十分である。観光客が目的のジオサイトまで無事にたどり着き、そこで観光をすることによって、はじめてそのジオサイトは観光地になりえる。よって、観光客をジオサイトまで導くための“戦略”や“しくみ”が必要となる。これらを構築する上で重要なのが、観光マーケティングの知識である。魅力あるジオの観光コンテンツを、適切なターゲットに向けて効率的に発信する上で、観光マーケティングのノウハウは欠かせない。しかし、ジオを前面に出し

た観光コンテンツはこれまであまり実例がないことに加え、ジオは、一部の例外を除けば、概して地味で、派手さに欠け、「難しそうだ」というイメージをもたれがちであるため、そのPRの仕方が非常に難しい。専門職員には、どうすれば自らのジオパークの地質資源を誘客に結びつけられるか、という自分なりの戦略を考える姿勢が要求される。

【専門職員は「地元目線」になってはいけない】

ジオパークによる地域振興の肝は、今まで何気なく見過ごしていた景色や、地域の歴史・文化に、ジオに関するアカデミックな情報を付加し、住民や観光客の地域の（再）発見を促すところにある。その中では、地域住民にとってごく当たり前のもの（例えば食べ物）が、非常に魅力的な観光資源になる事も少なくない。専門職員は、そういった埋もれた観光資源を掘り起こし、それらがいかに魅力的であるかを、ジオと絡めて地域に発信していく必要がある。そのためには、専門職員には常に観光客の目線で地域を眺め、ジオとの繋がりを意識しながら、潜在的な観光資源を掘り起こしていく努力が求められる。

【ジオパーク事業を推進している自治体の方へ】

ジオパーク事業を推進し、世界ジオパークネットワークによる定期審査をクリアし続けるためには、教育のプロ、観光のプロ、行政のプロ、そして学位を取得した、優れた専門知識を持つジオのプロが、お互いの情報を共有しつつ、足並みを揃えて事業を推進できるような、継続的な組織が必要となる。これらの足並みがバラバラになっている地域は、世界ジオパークに認定される可能性は低い。

その一方で、大学院の博士課程を修了し、学位を取得したにもかかわらず、就職先に恵まれず、苦しい日々を送っている人材は数多い。地球科学に関する世界レベルの優れた専門知識や能力を兼ね備えたこれらの人材は、（演者自身がそれに相当するかどうかはともかく）”ジオのプロ”としてジオパーク事業を継続して推進するための極めて大きな戦力となることは間違いのない、という事を、最後にお伝えしたい。

キーワード:島原半島ジオパーク,専門職員,視点,観光マーケティング,ジオのプロ,雇用

Keywords: Unzen Volcanic Area Geopark, Special Official, Perspective, Tourism Marketing, Professional about earth science, New employment